

れきみんだより

平成 22 年 6 月 23 日(水)
仙台市歴史民俗資料館
館長 土岐山 武
教師用 NO. 3

農具から何が学べるのか！

唐箕(とうみ)は最強精密マシンだった！



脱穀した粃(もみ)にはわらやごみ、空の粃などが混じっています。それをより分ける農具が「唐箕」です。

ところで、この「唐箕」は画期的な大発明だったということをご存じでしたか。江戸時代に作られたこの農具は、明治、大正時代になって多くの農家で使われるようになりました。

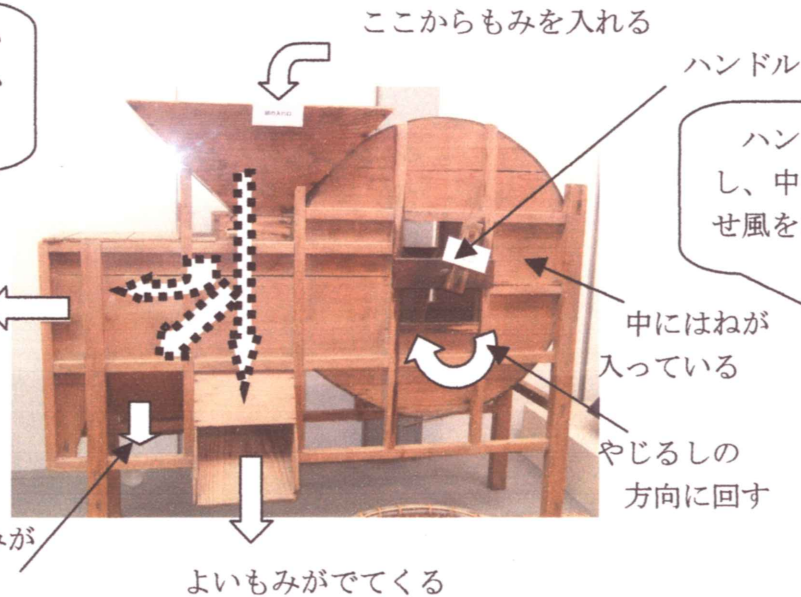
とにかく、今までは「箕(み)」を使っていましたが、なにしろ手間ひまがかかり大変でした。ところが、この農具が使われるようになってからは、すばやく大量により分けることができるようになったのです。

ごみと良いもみとわるいもみとが3つの方向に分かれて出てくるんだね！



ごみが
出てくる

わるいもみが
でてくる



ハンドルを手でまわし、中のはねを回転させ風をおこすんだよ！



風と重力を利用したこの農具は大ヒット商品だったのです。

あまり見向きもされそうもない古臭さそうなこの農具にも、当時の人々のアイデアと智恵と工夫がこめられていたのです。農作業が楽になり、農家の人たちもきっと喜んだことでしょうね。

さて、今は、コンバインやハーベスタという便利な機械がありますが、実はこの「唐箕」の技術がこれらの機械にも活用されているのですよ。驚きですね。

「唐箕」以外にも、「千歯こき」「備中ぐわ」などヒット商品はたくさんあります。「それらにはどんなアイデアが用いられ、それが現代にどのように生かされ、それを自分の生き方にどのように生かすことができるのか」などと考えるのはいかがでしょうか。

こんな見方をすると、たかが農具と思っていたものからも学べるものがたくさん見えてくるのではないのでしょうか。

仙台市歴史民俗資料館は学びの宝庫です。どうぞご利用ください。

TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

歴史民俗資料館は当時の人々の技や智恵や努力、思いや願いを皆様に伝えます！

昔と現代の脱穀から精米まで

主に明治・大正時代

現代

【足踏み脱穀機】



稲穂についている籾（もみ）をとる

【唐箕（とうみ）】



もみにまじっている殻（から）やごみを除く

【土摺臼（どずるす）】



もみがらと玄米（げんまい）にわける

【臼（うす）】



玄米を臼でつき糠（ぬか）と白米にわける

【コンバイン】



【ハーベスタ】



げんまい

もみがら

コンバインやハーベスタは刈り取りから脱穀（だっこく）まで一度にやっつけてしまえるんだよ！

